

# 5 DVD 飼養期間中の管理（ケア）

譲渡までの期間中、どのように飼育管理されるかが、子犬の心身の健康に大きな影響を与えます。清潔で快適な環境はもちろん必要ですが、成長途中の子犬たちにとっては、日々どのように扱われるかで、怖がりにも穏やかにもなります。

譲渡により適した、心身ともに健康で情緒の安定した子犬になるような飼養管理を目指しましょう。

## 抱き方

子犬は、やさしく、しっかりと扱きましょう。抱き上げるときは、胸とおしりをしっかり抱きます。子犬がバタバタしても、落として怪我をさせたりしないように、気をつけましょう。

【悪い例】首筋だけをつかんで持ち上げる、片腕、または両腕だけをつかんで持ち上げるのはやめましょう。子犬の関節を痛める原因にもなります。



抱いて渡す



座って抱く

## 怖がらせない

収容中の子犬に過度なストレスをかけないように注意しましょう。乱暴な扱いをされると、子犬は人間を怖がるようになり、譲渡する際の障害になることもあります。



悪い例

## 衛生管理

感染症などを防ぐため、清掃、消毒に注意を払いましょう。特に以下の点に気をつけてください。

【清掃】飼育スペース・ステンレスケージを清掃した後は、必ず水気を拭き取り、乾燥させてください。ケージ内が濡れていると、子犬の体温を下げるおそれがあり、そのせいで健康を害する可能性があります。

【消毒】犬が使用するベッドやタオルなどは、常に消毒して清潔に保ちましょう。消毒薬は人と動物の双方に影響がないものを使用しましょう。また、どの薬剤をどの程度使用するかなど、スタッフ全員にわかりやすく表示（スポイトに印をつける、消毒用バケツにラインを引くなど）して、情報共有しておきましょう。

## 給餌

子犬の成長の度合いによっては、粒状のドライフードをうまく食べられないこともあります。ドライフードをお湯でふやかして与えるなどの工夫をしましょう。どの子犬に、どの餌をどの程度与えるかも、スタッフにわかりやすいように表示しましょう。



宮崎県では、「命の架け橋」犬ねこの譲渡推進サポート事業を、NPO法人「みやざき動物のいのちを守る会」との協働により行っています。委託内容は、県中央動物保護管理所敷地内に設置された、譲渡専用施設（ひまわりの家）での譲渡動物の飼育管理、および、月2回以上の譲渡会開催と譲渡後のアフターフォロー等となっています。ひまわりの家での飼育期間は最長一か月程度で、譲渡動物については県が譲渡可能と判断した犬と猫となっています。平成21年2月現在まで、譲渡候補となった動物はすべて新しい飼い主のもとに譲渡されており、多くの動物の譲渡を進めています。



宮崎県  
NPO法人との  
協働（委託）事業

事例③

## 飼育スペースの環境

### 乾いた床

飼育スペースの掃除後には必ず床や壁を拭き、水気を残さないということが非常に重要です。居住空間が濡れていると、子犬の体温を下げるおそれがあり、そこから健康を害する可能性があります。完全に乾いた状態をキープしましょう。



### トイレ

犬には、寝床からできるだけ離れた場所で排泄をするという習性があります。ここでは、寝床から最も遠い場所にトイレを設置して、そこで排泄する習慣をつけています。一定の場所で排泄をしてくると、床の掃除も楽になり、子犬も快適です。



### ヒーター

冷暖房が完備されていない施設では、子犬の健康を維持するために何らかの工夫が必要です。可能であれば、冬は床にヒーターをいれてやるといいでしょう。ここで使用しているのは養豚用のヒーターで、比較的安価で丈夫です。



### おもちゃ

子犬には「かじりたい欲求」が強くあります。安全な、かじって遊ぶおもちゃを入れてやるといいでしょう。人への甘噛み予防にも、おもちゃを与えておくことは有効です。

### ベッド

ヒーターの上に、やわらかなベッドや毛布を敷いてやるとさらに快適です。

### ステンレスケージの場合

ケージ飼育の場合も、せめてゴムマットやタオルなどを入れてやりましょう。ステンレスのスノコは、掃除はしやすいですが、子犬の体には冷たく、心地よいものではありません。ゆっくりと安心して眠ることができる場所を確保するために、マットや毛布、可能であればベッドなどを入れてやるのがいいでしょう。

